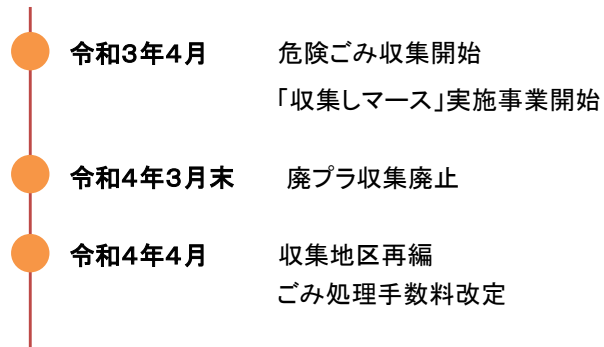


1. これまでの取り組み

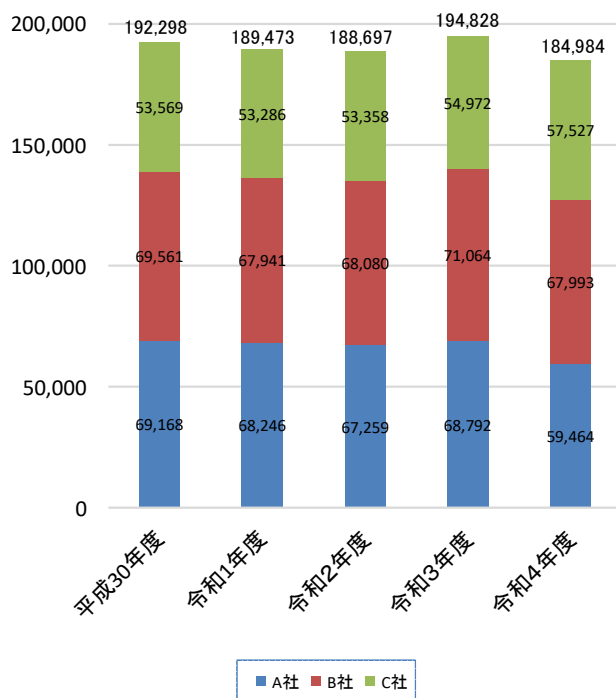


2. 収集地区再編の効果

2.1. 廃棄物収集効率化

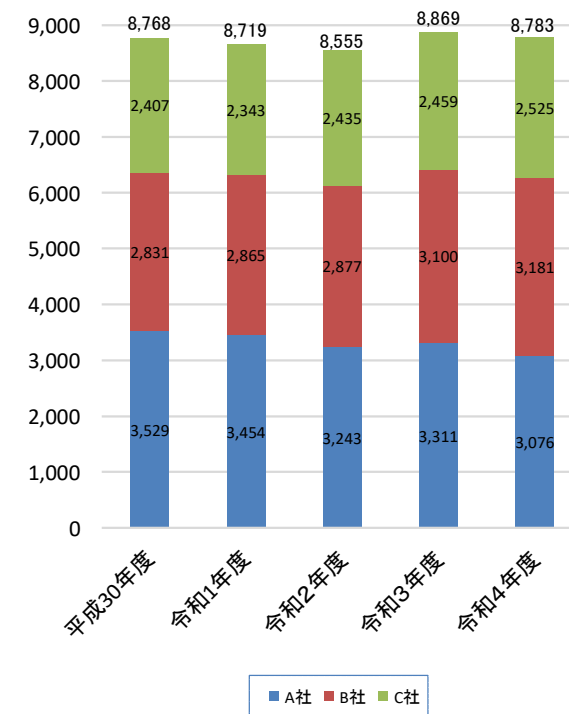
移動距離

年度	移動距離 (km)	増減率 (前年度比)
平成30年度	192,298	
令和1年度	189,473	△1.47%
令和2年度	188,697	△0.41%
令和3年度	194,828	3.25%
令和4年度	184,984	△5.05%



稼働時間

年度	収集時間 (h)	増減率 (前年度比)
平成30年度	8,768	
令和1年度	8,719	△0.56%
令和2年度	8,555	△1.88%
令和3年度	8,869	3.68%
令和4年度	8,783	△0.97%



○令和4年度の移動距離が過去4年間の平均に対し、6,340 km (3.3%) 減少した。

○令和3年度から稼働時間が増えたのは、危険ごみ収集開始により不適正排出が増え、その対応(シールの貼り付けや確認作業など)に時間を要したことが要因として考えられる。

○収集地区再編を行った令和4年度では前年度に比べ稼働時間が、86時間(0.97%) 減少した。

2. 2. 廃棄物収集平準化

移動距離、移動時間、ごみ量すべてにおいて平準化できた

移動距離

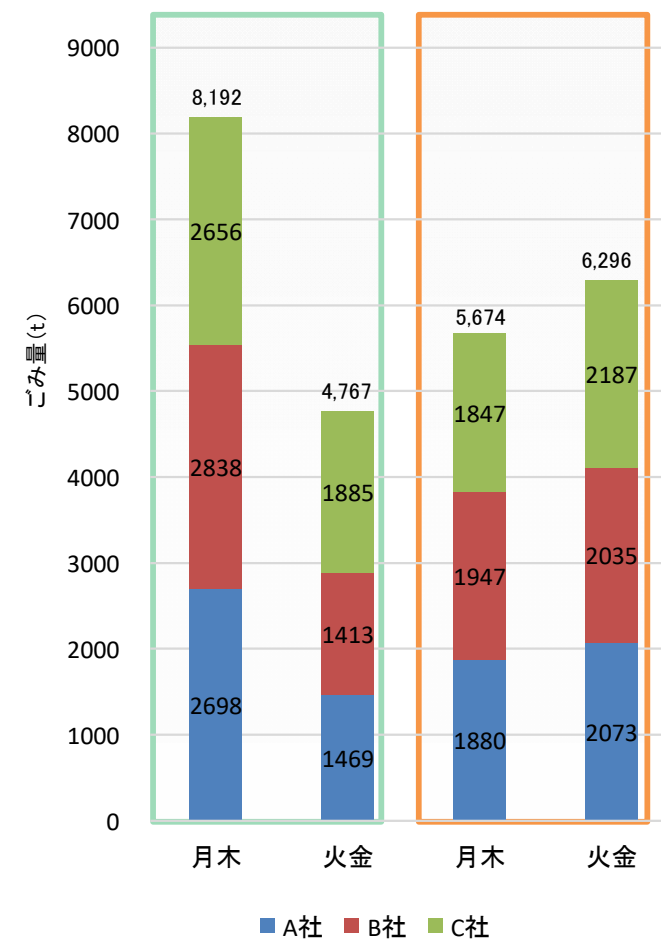
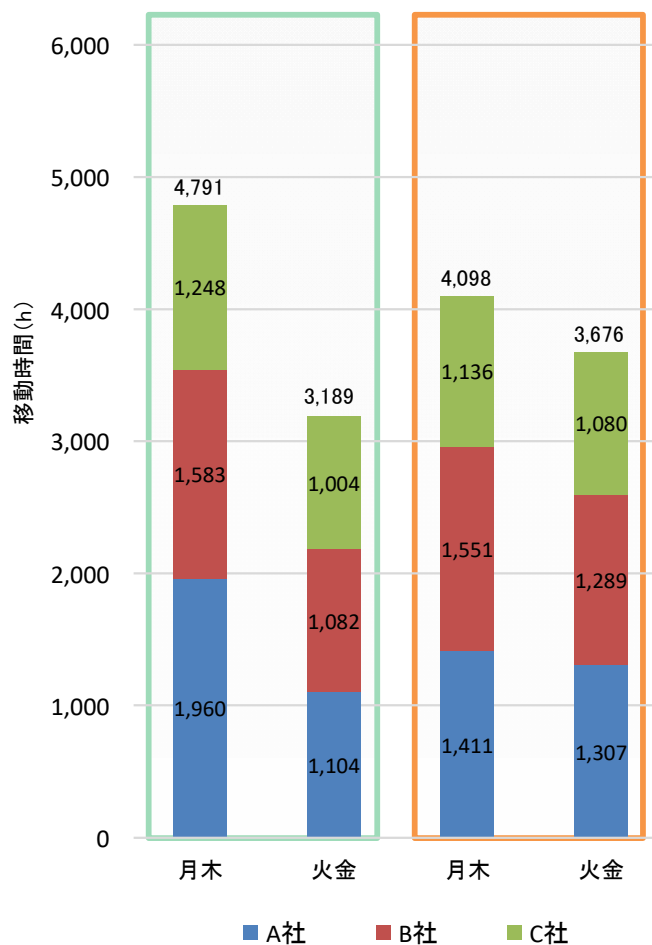
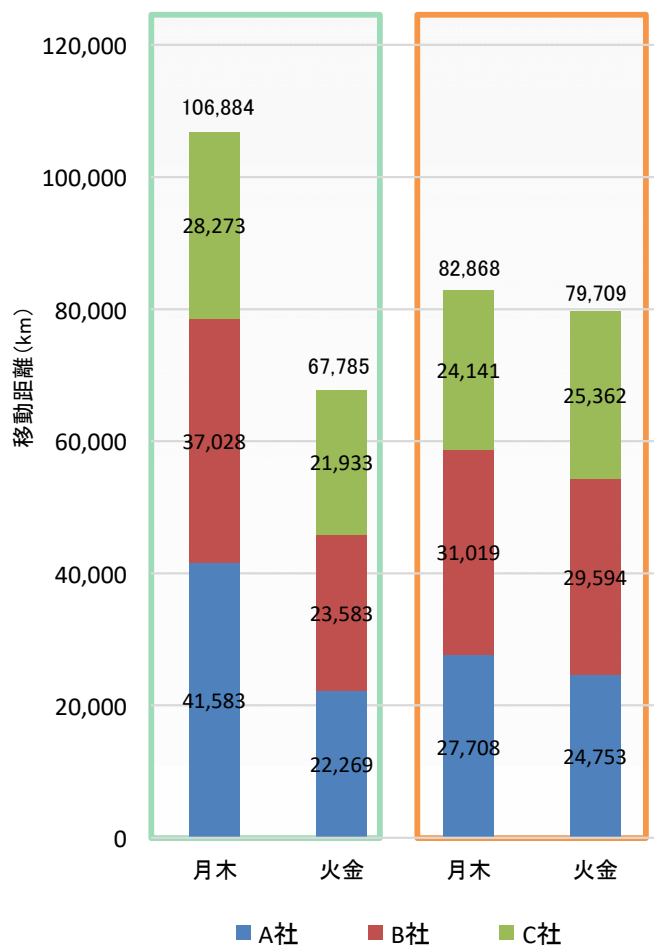
移動時間

ごみ量(燃やせるごみ)

39,099km差 → 3,159km差

1,601時間差 → 422時間差

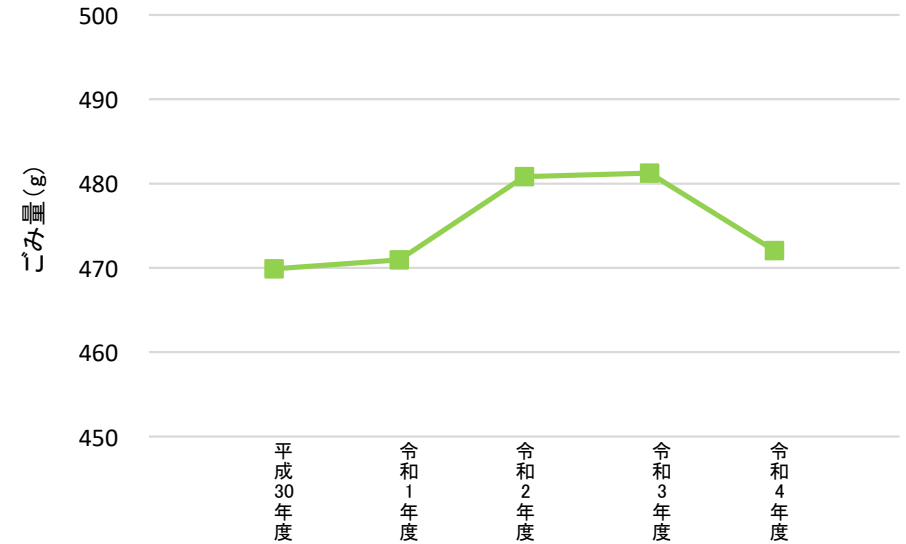
3,425トン差 → 622トン差



3. 手数料改定の効果

3. 1. ごみ量削減

年度	家庭系ごみ量 (t)	ごみ量増減率	人口 (人)	一人1日あたりあたりの排出量 (g/日)	一人1日あたりあたりの排出量増減率
平成30年度	14,327		83,534	470	
令和1年度	14,124	△1.42%	82,167	471	0.21%
令和2年度	14,173	0.35%	80,762	481	2.12%
令和3年度	13,892	△1.98%	79,090	481	0.00%
令和4年度	13,348	△3.96%	77,472	472	△1.87%

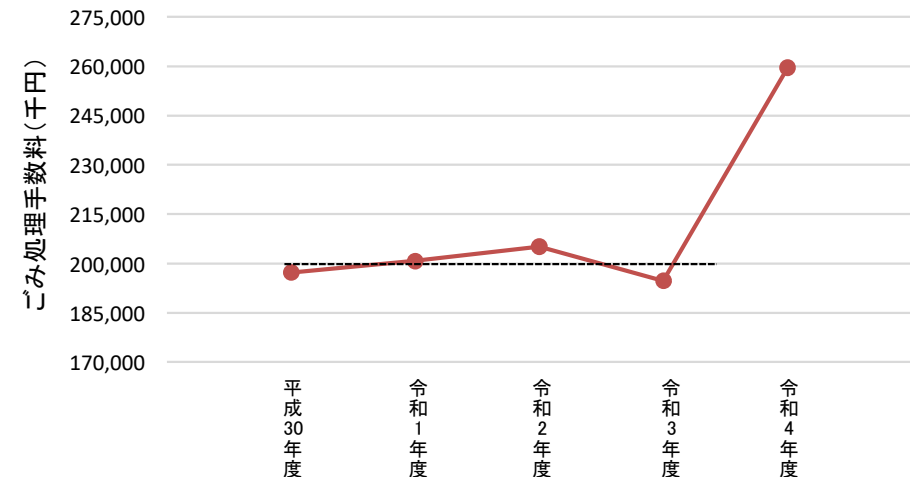


・令和2年度から新型コロナ感染拡大による一人1日あたりあたりのごみ排出量は増加したものの、令和4年度は手数料改定やコロナ緩和による家庭系ごみの減少により、人口減少以上のごみ量が減少した。

(ごみ量: R2→R3:1.98 %減、R3→R4:3.93 %減、 人口: R2→R3:1.11 %減、R3→R4:1.07 %減)

3. 2. ごみ処理手数料への効果

年度	ごみ処理手数料 (千円)	世帯数	一世帯あたりの年間ごみ処理手数料 (円)	一世帯あたりの年間ごみ処理手数料増減額 (円)
平成30年度	197,271	45,556	4,330	
令和1年度	200,786	45,208	4,441	111
令和2年度	205,149	44,878	4,571	130
令和3年度	194,705	44,280	4,397	△174
令和4年度	259,602	43,803	5,927	1,529



・手数料改定により、ごみ処理手数料収入が例年の約1.3倍となった。

・手数料額が1.5倍になっているのに対し手数料収入額は1.3倍となったのは、家庭系ごみ量の減少や旧ごみ袋の使用が要因と考えられる。